

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、合同で夜勤者から日勤者へ申し送りをした後、理念の唱和をし、その内容に沿った支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では区長さんや民生委員の皆様に出席をお願いし、地域の行事やイベント情報をお聞きしている。中学生の福祉体験、秋祭りなどを受け入れ、交流を図っている。夏祭りを開催し、地域の方に参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られる方に認知症の方の共同生活の様子や認知症についての理解に役立てて頂く情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況について入居人員、介護更新、希望待機者、ヒヤリハット、施設内での出来事等毎回行っている。職員会議で会議内容の報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二カ月ごとに、運営推進会議、町のケア会議、GH事業所会議などで市町村担当者から情報提供いただいたり相談したりしている。日常の業務で疑問点があれば、その都度、担当者に問い合わせ、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内、外部研修を通じて身体拘束についての勉強会を行っている。言葉による拘束を含めて、緊急やむを得ない場合の3要件理解し、夜間のベッド柵などの使用について、家族様に説明し確認書を頂いている。		

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設内研修で虐待防止についての勉強会を行っている。新聞報道などで虐待の記事があれば回覧し、情報を全員が把握できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の勉強会を施設内研修で実施それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族様に説明を十分行い、理解、納得して頂いて契約をして頂いている。面会のたびに話を聞かせて頂き、不安や疑問点を尋ね、説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時などは自由に話ができる機会を設け要望などを聞いている。3か月に一回ご家族様にご利用者の様子を伝えたり、献立表を送付させて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議などで職員の意見を聞き反映させている。朝の合同会議で意見があった場合は日勤者に申し送っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を主にし、ユニットごとにリーダーを決め職員各自の労働状況を把握しながら、給料、賞与に反映し時間外労働をなくすように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会、または外部研修会などの参加を積極的に進めている。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内7つのグループホームで、職員同士の意見交換会を1つ月に1回行っている。管理者による事業者会議を二か月に一回京丹後市の主催で行っている。会議で出た意見は職員会議の席で報告している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後の初期段階では出来るだけ本人の思いや要望をきくことが出来る様に努めている。聞き手に回り傾聴に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人家族様の困っておられることなどを聞かせて頂き、解決策を提案、納得して頂いたうえで入居して頂けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、家族様から頂いた情報の中から安全、安心の為まずしなければならない情報を得てサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来ることはして頂く心がけてけている。暮らしを一緒にする関係関係を持つように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の体調や心配事を面接時にお聞きして家族様の相談も受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られ、野菜や果物を持参され、近所の方は夏祭りなどに参加して頂いている。		

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	食事の席で仲の良い利用者様が隣り合わ せになるよう配慮している。職員の話題の提 供により会話が弾むよう心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了により退所されると、連絡が途絶 えがちになりますが、後で忘れ物等届けに 行った時などその後の様子などを聞かせて 頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人の思いや希望はその都度ご本人に 聞き、職員間で情報を共有し、すぐ退所させ て頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	アセスメントや情報提供により得られた生活 歴、生活環境などをもとにご本人の記憶の 範囲内で情報確認を行っている。ご家族様 にも教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でいつもと違う様子だっ たり、出来ていたことが出来なかったりとい った変化に注意し、観察を行っている常に職		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	介護計画は各担当職員が、サービス計画作 成担当者と相談しながら計画書を作成し、ケ アマネージャーが確認し、最終的に作成して いる。モニタリングは月1回ケア会議で行っ ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に様子やケア内容を記録し ている。夜勤者が早出、日勤者に引継ぎ、 情報を共有している。ご本人の発せられた 言葉や様子を記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出したい時は買い物に出かけたり帰宅願 望のある方は少しの間だけでも帰ったり一 つでもその人のニーズに対応できるように 支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや文化祭への参加、夏祭りには たくさんの子供たちや近所の方々が参加さ れている。ボランティアの方に連絡をして、 餅つきをしたり歌や踊りなどを披露してい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族様の希望を大切に協働医 院の往診に付き添い、その他の通院はご家 族様が付き添い通院して頂いている。体調 の変化時主治医の先生に報告し、家族様に 連絡している。		

31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だが、法人内の他の施設の看護師に相談相談する。協力医と連携して適切な受診や看護が受けられるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り職員が洗濯物を届けたりしている。服薬と通院程度の医療ならば、退院につなげる様働きかけ、利用復帰に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをする体制は整えられている。夜間でも緊急の時は主治医の先生に電話連絡する。家族さんとも連絡が取れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設のマニュアルを作成しており毎年見直し、確認をしている。運営推進会議会議で協力依頼をしたり、市からの情報も参考にしている。近所の方や委員の方が参加される火災訓練を年二回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者の安全を第一に考え、地域の方も一緒に避難訓練を行っている。防災の委員を決め地震、消防を含む災害時に備え活動し、マニュアルの見直し、確認を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳をまもれるよう、言葉使いに気お付け個々の思いを重視し要望などに添えるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、生活歴や性格なども考え食べ物の好みややりたい事を理解し、食事やレクリエーション、イベントなどを取り入れる。		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせ、食事や入浴の時間をずらすことが有ります。食事に時間がかかり周りが気になる方には、お部屋でゆっくり食べて頂いたりご利用者の気持ちに寄り添うように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えを自分で選んでもらったり、化粧水、乳液などは家族様に依頼したりしている。ヘアカットもご家族が連れて行かれる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所でできることは一緒にして、楽しく過ごしてもらっている。台所でなくても自席で皮むきや、房ほぐしなどもして頂く。かたづけも一緒に会話しながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を毎食チェックして不足のないようにしている。一人一人の主食の量も決めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後働きかけを行い、口腔ケアを行っている。出来る方は自ら、出来ない方は声掛け誘導している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、個々に排泄状況を把握している。パット類も職場間で話し合い、その方にあった家族様了解の上でその方にあったものを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表でチェックをし、薬だけに頼らず食品や運動で便秘予防に取り組んでいる。		

45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を事前にお知らせし、いつ入りたいかを聞いたり入浴中には湯加減を聞いて希望に添えるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後にはノンカフェインの飲み物を提供。個々の部屋には好みの布団が使われたり、湯たんぽを用意したりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬状況とその内容も分かる様にしている。内容変更時はノートに書いたり、申し送りをして全員が分かる様にしている。服薬チェックも表にて徹底できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で役割があり、自覚して続けている方もいる。食べ物のリクエストでバラ寿司を一緒に作ったり、外出の機会を作ったり、気分転換の手助けに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブでは、行き先のリクエストを聞いたり季節行事には参加できるようにしている。家族様と一緒に外出もして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の好みで欲しいものがあれば、対応できるよう家族様から預かり金を預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	、字が書ける方にはハガキか手紙を書いていただく支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使う場所は、季節感ある飾りを工夫し室内に日の当たるスペースもある。玄関先にプランターを植え、庭先の畑で野菜づくりを行っている。		

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の席は決まっているが、気の向くままに話したい人の横に行かれたりするのを支援する。利用者さん同士でテラスに座らletたいしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の好みのタンスを持ち込んだり、飾ったり配置も家族様と話し合い、変えてみたり工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁時計や居室入口の表札は利用者の目線で分かりやすくする。押し車でも安全に行き来できる環境に努める。		































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 28

事業所番号	2693300150		
法人名	特定非営利活動法人ふくし京丹後		
事業所名	グループホーム善王寺 さくら・Aユニット		
所在地	京丹後市大宮町善王寺527		
自己評価作成日	平成29年2月	評価結果市町村 受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

テラスから眺める景色は行きかう車や自転車定期的に通る丹後鉄道の列車、玄関や居室からは遠くに住宅や山々が眺められ、自然と生活感が味わえる環境の施設です。法人理念である「思いやりと笑顔・ご利用者の尊厳を守る・地域貢献」を大切にし、ご利用者・ご家族・地域の皆様に愛されるグループホームを目指し、職員一丸となって取り組んでいます。入居者の重度化が進む中で自己決定により季節行事への参加、調理手伝い、等を行うことで、毎日の生活に潤いや楽しみを見つけて頂くことを目指しています。地域のボランティア様を積極的に受け入れ、活用することで多様なサービス提供が出来る様取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

もみじユニットに同じ。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	平成29年 3月 6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの 成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)

59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			